

逆境こそ原動力

課題先進地域 四国の挑戦

新政権船出の中で Ⅰ



芽を出したばかりのコムキが、冬の柔らかい日差しを受けて揺れる。香川県東かがわ市にある「ムムム自然栽培農場」。コムキ畑を担当する32歳の入木啓至さんは東京の農場は岡山

経営コンサルティング会社を辞め、昨秋この農場にやってきた。

安全な農法追求

食の安心・安全が叫ばれる中、ここでは農業、化学肥料、動物性廃棄物を使わず、植物から作った肥料で作物を育てる。

「これからは農業の時代と感じ始めた時に、この農法に出合った」。入木さんは農場で修業した後、故郷の京都府で同農法による京野菜作りに挑戦するとい

う。今年、同農場は岡山

空洞化克服モデル示す

同農場の山西和雄代表は「この農法は土壌に残留農薬がなく、周辺でも農業を使っていないなどの条件が必要になる。耕作放棄地や限界集落地区こそが逆に耕作適地となる」と話す。野菜は裏ごしして食べやすくした

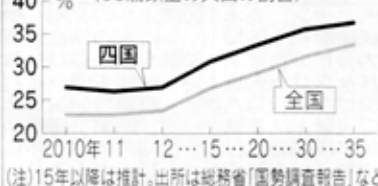
「ビューレ」にし、アレルギーに悩む人たちなどに向けた高付加価値の加工食品として販売する計画だ。香川でまかれた農法のタネが、四国を超えて広がり、他地区の過疎対策という新たな芽も出そうとしている。

IT(情報技術)システム開発のミトラ(高松市)。地方に住む妊産婦でも中核病院の先進的な診療を受けられる遠隔診療システムを手掛ける。妊産婦が最寄りの診療所

「米日カウンシル」がシアトルで開催した2013年。四国では様々な挑戦が始まる。四国企業の動向に詳しい日本政策投資銀行四国支店の千葉幸治・企画調査課長は「産業の空洞化が叫ばれているが四国は製塩や和紙、捕鯨など何

度も空洞化を乗り越えてきた空洞化克服先進地。逆風を追い風にして数多くのニッチトップ企業が生まれてきた」と四国の強さを分析している。

四国の少子高齢化は進んでいる



で超音波画像診断や血圧測定などを受け、大病院の専門医が画像やデータで診断する仕組みだ。医師不足が深刻な山間部や島しょ部などの需要が大きく、全国約80の医療機関に納品している。東日本大震災の際には、このシステムが力を発揮。津波でカルテが流

され、データが紛失した医療機関も少なくなかったが、システムを採用していた若手県金石市ではサバーのデータを迅速に復旧、診療再開につなげた。離れたサバーにデータを保管する遠隔診療の特性がバックアップの役割を果たしたのだ。海外でも積極的に展開する。手始めにタイで保健省や情報技術・通信省、大学などと連携し、昨年

対日交流団体「米日カウンシル」がシアトルで開催した2013年。四国では様々な挑戦が始まる。四国企業の動向に詳しい日本政策投資銀行四国支店の千葉幸治・企画調査課長は「産業の空洞化が叫ばれているが四国は製塩や和紙、捕鯨など何

度も空洞化を乗り越えてきた空洞化克服先進地。逆風を追い風にして数多くのニッチトップ企業が生まれてきた」と四国の強さを分析している。

トラクターの扱い方の指導を受ける入木さん(香川県東かがわ市)

対する解決がこれからの地域産業の源泉となる。介護・医療、健康、農業、さらには高齢者に優しい街づくりなどもそれに当たる」と指摘する。同氏は「変革に先駆けることができれば、国内だけでなく、今後急速に高齢化するアジアも市場になる。自動車や電機などの次に日本経済をリードする産業が、地方から生まれる可能性は十分ある」とみる。

急速に進む高齢化や歯止めがかけられない人口減と過疎、企業・事業所の